

# 牧草と園藝



# 果樹園の草生栽培(Ⅲ)

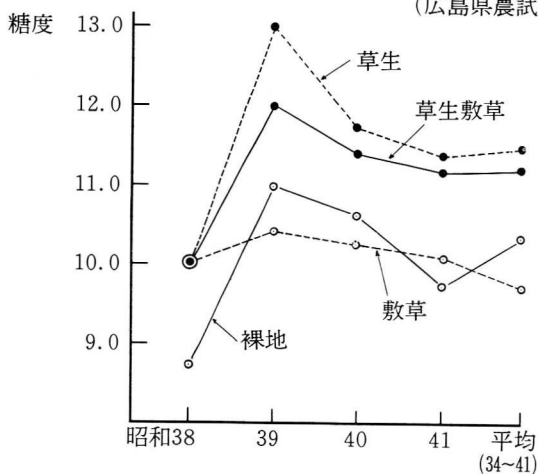
千葉研究農場 兼子達夫

## 〈5〉 草生栽培で果実品質が向上

草生栽培によって、一般に果実の着色と成熟が促進されるとともに、糖度が増加することが多い。これは草生によりチッ素の奪い合いがあるため、有効態チッ素の吸収が抑制されやすいからです。つまり草生栽培で果実品質(市場性)の向上を期待できます。

### ■温州みかんの糖度(届折計示度)

(広島県農試)



## 〈6〉 草生栽培(牧草種子)は安価

稲わら、麦稈は年々高値、入手難の状況にありますが、牧草種子価格は割安で有利です。

牧草の種類	種子1kg単価	10a当り播種量	10a当り種子代
ラジノクローバ	3,000	2kg	6,000
アカクローバ	1,300	2	2,600
オーチャードグラス	1,300	3	3,900
トールフェスク(ケンタッキー-31フェスク)	1,300	3	3,900

稲わらの単価	10a当り必要量	10a当り稲わら代
1kg 5円の場合	2,000kg	10,000円
1kg 10円の場合	2,000	20,000
1kg 15円の場合	2,000	30,000

## 〈7〉 草生栽培のポイント

- ① 果樹の幼木時は、畑全面に日光照射が良好であり、シロクローバ、ラジノクローバ、うまごやし、やはずそうなど**まめ科牧草**の草生栽培が地力を著しく増進し、果樹の生育を促進して果実収量を高めます。
- ② 成木になり樹下に陽光がとどかないときには、**耐陰性の強い牧草**オーチャードグラス、ペレニアルライグラス、ラジノクローバ等が適し、これらを鋤き込むことによって有機質の補給、土壌の団粒化が得られます。
- ③ **全面草生の場合**、果樹と牧草との間で土壤水分およびチッ素成分の奪い合いが生じますが、牧草の刈取り、樹幹の周囲に敷き草することにより奪い合いは解消され、良結果となります。  
(刈り草のマルチ利用で調節)
- ④ オーチャードグラス、トールフェスク(ケンタッキー-31フェスク)、ライグラス、パヒアグラスなど**いね科牧草**はチッ素の吸収力が強いので、草生繁茂が旺盛なときは刈取り、チッ素肥料を標準より多めに追肥することが必要です。
- ⑤ 草生栽培は、**牧草を刈り取り、樹幹の周囲に敷き草すること**、毎年あるいは2~3年ごとに**牧草を鋤き込むこと**が最善であり、放任栽培はいけません。
- ⑥ 草地敷き草栽培でも灌水の効果は高く、土壤乾燥時の灌水は果実収量を向上します。

(補) 開園直後で土壤に有機質が欠乏している状態では、降雨による土壤流亡が生じやすいので、草生栽培と敷わらを併用し、土壤保全に注意すること。